

## はじめに

女性研究者養成システム改革推進本部長 岩井 薫

平成 22 年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」（平成 23 年度から科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」）に採択され、実施されてきた本事業（採択課題名『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』、採択期間：平成 22～26 年度）も今年度で 4 年目となりました。

本事業では、女性人材育成機関としての本学の伝統を基盤とし、学長のリーダーシップの下で男女共同参画推進に係わる全学的な組織の再構築を行い、女性研究者養成に係る以下の 3 つのシステムを推進し、次世代の女性研究者養成拠点としての役割を果たすことを目的としています。

- ・ 若手女性研究者養成システム
- ・ 研究スキルアップシステム
- ・ 若手研究者サポートシステム

若手女性研究者養成システムでは、平成 22～24 年度で理学系 5 名（准教授 1 名、助教 4 名）と工学系 2 名（助教 2 名）を採用し、本年度は理学系 2 名（助教）を採用しました。また、独自養成女性研究者を平成 24 年度に 1 名（工学系）採用しました。本事業の実施期間全体の女性教員比率の目標は 20% 以上ですが、平成 25 年度（平成 26 年 2 月 1 日現在）の女性教員比率は理学系 24.4%、工学系 33.3% と既に目標値を達成しています。また、本システムでは養成システムに係る若手女性研究者の研究費支援も行っています。

研究スキルアップシステムでは、学内の理工農系の女性研究者を対象に、国際学会・国内学会での研究成果発表のための支援（平成 25 年度は 2 回公募）や英語論文校閲の支援（同 5 回公募）を行っています。

若手研究者サポートシステムでは、養成システムに係る新規養成若手女性研究者に対し 3～4 名の教員からなるメンターチームを構成し、指導助言を行っています。なお、本学では、メンターチームが有効に機能するようにメンターチーム評価制度を設け、PDCA サイクルを活用することで、関係分野だけでなく全学的な観点から女性研究者養成システム改革推進状況の把握に努めています。

その他の活動では、本年度は、「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム 2013」に参加し、本学の取り組みについて紹介するとともに、他大学の取り組み状況を聴取し、女子大学としての女性研究者支援の在り方等について再考するとともに、女性研究者養成システム改革加速講演会として、学内教職員・ポスドク・大学院生を対象としたスキルアップのための研修会「多様化する大学院生をどう育てるか？」を開催し、本事業の推進に努めています。